

事業者から提案のあった運行方法の概要について

前回の会議以降に、濃飛バスと白川タクシーから提案のあった運行方法は、次のとおり

1. 濃飛乗合自動車株式会社（濃飛バス）が提案する運行方法

<濃飛バス美濃白川営業所の現状>

- ・体制 4行路 運転士：4人 運行管理者：2人
更に運行管理者1人が年度末で退職予定
- ・営業所として規模が小さすぎて、維持が困難（適正規模は、運転士10人に運行管理者1人）
- ・要員（運転士・運行管理者）の安定確保が困難
- ・車両の更新、社屋の老朽化対応 大きな投資が困難

上記のことから、美濃白川営業所による運行継続は厳しい状況であるが、可能な限り公共交通の維持に協力していただきたい。

<今後に向けた対応策>

下呂営業所発着による運用等も検討したが、新しい公共交通システム開始後も、当面は美濃白川営業所を存続する方針とする。

今後も要員確保が困難な状況は続くものと推察され、退職者の欠員補充は困難であり、現行の要員で対応できる範囲内で運行を継続することとなる。

- ・運 転 士：4人（うち1人は運行管理者の資格有り）
- ・運行管理者：1人

上記の体制に見合う、ある程度の業務量（白川線を含む2路線程度）が必要となる。

休日運行の再開についても、上記の体制の中で対応する。

高校生の通学手段の確保維持を優先して運行案を検討する。

「当面」とは現時点では平成32年9月末を想定し、それ以降は、今後の状況を見ながら検討していく。

2. 白川タクシー株式会社が提案する運行方法

<白川タクシーの現状>

- ・体制 車両(セダン): 1台 運転士: 1人
- ・地域公共交通を担うため、白川町から事務所建物を借り受けた。(有償)
- ・白川町から人的支援を受けながら体制整備中
- ・事業規模が固まりしだい運転士等の募集を開始予定。なお、白川タクシーが公共交通に携わるといった情報を聞いた住民等から、転職し運転士になりたい旨の申し出が数件あり

早期に乗合事業の認可を取得したいが、要員及び車両の確保ほか体制整備の進捗状況を考慮すると、準備時間が足りず、段階的な整備が現実的

<提案する運行方法>

市町村運営有償運送(空白輸送)とし、車両は町村から借り受けて運行する。

有償運送の運転士は、正社員とパート社員とし、白川タクシーが雇用する。

原則として、地域部会のエリアごとに運行する。

高校生の朝の通学時間帯は、定時定路線運行とし、各地区から最寄り駅まで運行する。

その後は、地域が希望する方法によりデマンド型交通で運行する。

高校生の帰りの時間帯は、JRの駅着に合わせて各地区へ定時運行する。(17, 18, 19時台のJRに接続させる)

休日(土・日・祝)も運行するが、平日並みにすると要員確保に経費が高いため、必要最小限の運行体制としたい。

スクールバス運行業務(現行は直営)を受託したい。

朝の高校生通学にスクールバスを利用したい。 10人乗りで輸送できない地区のみ

白川口	岐阜行	高山行	運行イメージ			
5時	530	533				
6時	612	648				
7時	708		高校生通学対応	定時定路線運行		
8時		804	小・中学生	スクールバス運行		
9時	905	905				
10時		1027				
11時	1103					
12時	1227					
13時		1313				
14時	1437	1427				
15時						
16時	1635	1611	小・中学生	スクールバス運行		
17時	1709	1733	高校生通学対応	17時台	10人乗	デマンド
18時	1820	1836	高校生通学対応	18時台	10人乗	デマンド
19時	1930	1933	高校生通学対応	19時台	10人乗	デマンド
20時	2036					
21時	2146	2123				
22時		2250				
23時	2331					

左のJR時刻表には特急は表示してありません